様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ６ 月 ２３ 日現在

機関番号：１４３０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2014～2016
課題番号：２６３８０８４２

研究課題名（和文）多層的文化内での幸福感の対人的基盤：農業・漁業・企業分析

研究課題名（英文）Well-being and social capital: Multilevel analysis for regional communities and organization

研究代表者
内田　由紀子（Yukiko, Uchida）

京都大学・こころの未来研究センター・特定准教授

研究者番号：６０４１１８３１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,600,000円

研究成果の概要（和文）：　408集落から収集したデータを解析し、マルチレベル分析を行った。日本において相互協調性は農業者で高いという結果が得られた。また、マルチレベル分析の結果、相互協調性は農業地域の住人であれば非農業者であっても高いという、集落レベルでの効果も得られた。農業地域全体における相互協調性の効果は、集合活動への参加率の高さによって説明されていた。
　また、日本の企業(25社）に調査を実施したところ、個人レベルでも会社レベルでも、会社への愛着や職場の人への信頼感の高さが社員の幸福感に影響を与えることが明らかになった。これらの結果から、日本国内の文化の多層性（生業や企業風土による違い）と共通性の双方を検証した。

研究成果の概要（英文）：This study addresses how psychological characteristics, such as interdependence, are shared among people through collective activities that go beyond individuals' personal economic activities. Multilevel analyses on a large-scale survey of 408 regional communities in Japan suggested that interdependence was more prevalent in farming communities than in non-farming communities, not only for farmers but also for non-farmers. Longitudinal analysis suggested that, due to engagement in collective activities, non-farmers living in farming communities are more likely to be concerned about others. These findings demonstrate that culture-specific psychological functions can be transmitted through social interaction during community activities, above and beyond individual economic activities. We examined organization community in addition to regional communities as a unit of culture. We collected data from 25 companies and found out the well-being is related with social capital among company.

研究分野：社会心理学

キーワード：文化　農業　漁業　企業　幸福感　社会関係

１．研究開始当初の背景

2011 年には OECD が Better life index を提案、幸福度を測定してそれぞれの国・文化のあり方を検証しようとするなど、幸福度測定への関心は社会科学の諸分野で見受けられる。日本においても内閣府で「幸福度に関する研究会」が立ち上げられ（2010 年～2013 年）、指標作成がなされてきた。こうした議論は、心理学・経済学・社会学・政治学・社会疫学など、幅広い分野での協働の土壌形成に資するものであった。日本では特に震災後、幸福を支える地域・家族・職場での関係性（つながり）が果たす役割が再検討されており（内田, 2013）、地域のソーシャル・キャピタル研究（パットナム, 2006）や、社会階層と健康についての疫学的知見（カワチ, 2013 など）などを援用して日本的な幸福感を理論化する試みが見られる。幸福感とそれを支える社会関係の文化的基盤の包括的検証が今求められている。　幸福感という心理的な現象を検討するにあたり、見落とされがちなのは、社会・文化的環境がいつ、なぜ、どのように、幸福感をもたらす（あるいはもたらさない）のか、そしてそのような幸福感のあり方がどのように文化を形成するのかという、「文化と心」の相互構成メカニズムの検証である。この問題に実証的に取り組むのが文化心理学の視点である。これまで研究代表者は、日本文化においては周囲の他者とのバランスを考えるような「協調的な幸福感」が重視されていることを明らかにしてきた(Uchida & Ogihara, 2012)。

しかしこれまでの研究は学生データをベースにした国際比較研究が主体であった上、地域・職場とのつながりが幸福感に与える影響の文化差については明らかにされていなかった。また、従来の文化心理学研究は、国内の地域文化や企業文化の比較を含めた文化の多層性を十分に検証できていなかった。よって、幸福感において他者とのバランスや協調性が重視される傾向は、日本のどのような環境下でより強く見られるのかは、未だ解明されていない問題である。Nisbett(2003)や北山らの研究グループ(Uskul et al., 2008)は生業を１つの説明軸とし、定住による長期的な協力と分配が必要な農業文化圏においては、牧畜などに比べて他者との関係が重視されると説明している。この点が正しいかどうか、もしも正しいとすれば、農業文化圏とされる日本全体にその影響が波及しているのかについて、文化の多層性を解明することから検討する必要がある。

これまでの予備的研究においては農業者、あるいは日本型企業で相互協調的傾向が特に高い可能性が示唆されており、今後の研究により日本文化を形作るルーツを探ることが可能になる。さらには、グローバル化や経済資本主義により日本文化の中にありながら欧米的な価値観や制度を取り入れているような企業においては、多層な文化の間の相克が経験されている可能性がある。このような現象が幸福感あるいはメンタルヘルスに与える影響を解明することも現代社会において必須の問題である。

２．研究の目的

本研究の目的は文化の多層性に焦点を当て、幸福感とそれを支える社会関係の文化的基盤を解明することにある。その際、第 1 層としての「日本文化」と、第 2 層としての「農漁村地域文化」並びに「企業文化」に着目する。他者との協調的な関係が幸福の主要な源であるとされてきた日本において、(1)第 2 層の文化間に見られる共通性と差異及び第 1 層と第 2 層の間に生じる相克を検証、(2)個人レベルの要因（社会関係の認知等）とマクロレベルの要因（国・地域文化環境及び組織風土）を同時に分析、文化が心の働きに影響を与えるメカニズムを精査する。これらを通じて日本の農漁村地域又は企業内でどのような社会関係が幸福をもたらすのかを明らかにし、心の健康と安寧促進に資する知見を提示すると同時に、社会科学における新たな理論展開を目指す。

３．研究の方法

(1)日本国内の第 1 次産業従事者（農業者・漁業者）への調査分析を実施、従事者個人レベルの要因だけではなく、農村・漁村などの生業に根ざした地域コミュニティのマクロレベルの要因（人口構成などの地域文化環境属性）がどのように幸福感やメンタルヘルスに寄与するかを検討した。農業者・漁業者データの包括的分析を実施し、幸福感、地域とのつながり、地域へのコミットメント項目（以上、個人要因を尋ねる調査項目）と、地域の文化環境因子（マクロ要因）をあわせて分析を実施した。また、農業者と漁業者の比較分析を実施、農漁村地域文化に応じた地域住民のつながりの成り立ちを検証し、農業者・漁業者それぞれの個人レベルの要因だけではなく地域レベル（マクロレベル）の要因が与える効果を検証した。

(2) 日本型企業あるいは外資系などのグローバル企業を対象にした従業員調査を実施、個人レベルの要因と組織内のつながりや組織風土などのマクロレベル要因のそれぞれが、幸福感やメンタルヘルスに与える影響を検証した。企業での聞き取り調査やフィールドワークも実施し、幸福感と職場でのつながり（個人要因）を尋ねる質問紙調査を実施したうえで、企業内の組織風土や職場環境、職場内の制度などの文化・環境因子（マクロ要因）を企業毎に調査し、個人レベル・マクロレベルそれぞれの特性が幸福感に与える影響を検討した。

まず第１に、調査会社を通じて企業従業員へのパネル（時系列）調査を実施した。第 1 回は 450 名への調査を実施し、第 2 回ではそのうち 137 名からの回答を得た。

第 2 に、組織風土と個人の関連の分析のために、様々な企業・組織単位での調査参加を実施し、マルチレベル分析を行えるようなデータセットを作成した。具体的には様々な企業の協力を仰ぎ、組織・企業ごとに参加を募り調査を行った。この調査では、１）個別企業・組織の代表者（社長等）へのインタビューによる質的調査、２）調査１と同様の項目を用いた従業員（原則として正社員の全員）を対象とする質問紙調査、３）調査結果の企業・組織への報告書・面談によるフィードバックを行った。これにより、学術調査としての目的を達するのみならず、そこで得られた知見を直接的に社会に還元し、またその過程で新たな問題意識を見出すという、学術界と社会との互恵的な関係を目指した。企業との連携をベースに、合計 27 団体以上に協力を仰ぎ、従業員の幸福感や企業内の「つながりの意識」が企業文化とどのように関わっているのかを分析した。

４．研究成果

(1) 農業・漁業・都市的地域から収集したデータ（近畿・中国・四国・東海地方の 412 集落で実施した郵送調査のデータ：有効回答は 408 集落からの 7,295 名の回答）を解析し、マルチレベル分析を行った。

先行研究(Uskul et al., 2008; Talhelm et al.,2014)同様、日本においても相互協調性は農業者でそれ以外の職種の人よりも高いという結果が得られた。さらに興味深いことに、マルチレベル分析の結果、相互協調性は農業地域（農業者率の高い地域）の住人で他地域の住人よりも高いという、集落レベルでの効果が得られた。つまり、農業地域に住んでいれば、農業従事者でなくとも、相互協調性が高くなるとの結果である。また、集落レベルでの相互協調性が農業者率によって予測される効果は、集合活動（清掃活動や集落の寄り合いなど）の参加率の高さによって媒介されていた。つまり農業者が多い地域では集合活動が盛んになり、そのことにより相互協調性が高くなるということができる。

また、この郵送調査では、利他行動に関する項目（例えば「私は、町内（集落）の人が困っていたら手助けをする」）が含まれていたと同時に、相互独立性の項目（例えば、「自分の考えや行動が町内（集落）の他者と違っていても気にならない」）が含まれていた。そこで、相互独立性と利他行動の関連の強さを生業間で比較した結果、非養殖漁業者の間で特に強い正の関連があることが確認された。非養殖型の漁業は、資源獲得に伴う不確実性が特に業種である。そうした生業に従事する者は、相互に資源を融通する（利他行動を取る）ことで、集合的に不確実性に対処できる（Kaplan & Hill, 1985）。上の分析結果は、こうした集合的不確実性対策としての相互利他行動が有効に機能するためには、利他行動とは一見相容れない相互独立性も兼ね備えている必要があり、漁業者コミュニティにはこの両立を可能とする仕組みがあることを示唆している。

さらに、生業を基盤とした社会関係の特徴（因子）が同業者グループさらには地域コミュニティで一貫して確認されることを実証的に検証した上で、それら社会関係が集団・地域の幸福の醸成に寄与する役割を包括的に検討した。農業グループのリーダーならびに漁業グループのリーダーを対象としたアンケート調査データの分析を行った。上下関係などの「タテのつながり」の得点は、相対的に漁業者で高かった一方で、信頼関係などの「ヨコのつながり」の得点は相対的に農業者グループで高かった。農村コミュニティ・漁村コミュニティの「ヨコのつながり」「タテのつながり」が地域の幸福とどのような関連を有しているかを検討したところ、住民個人の「ヨコのつながり」が本人の幸福度を高めると同時に、地域全体に形成された「ヨコのつながり」が住民同士の幸福の結びつきを強めていることが検証された。これらの結果は、「ヨコのつながり」が「個人の幸福」と「地域全体の幸福」の双方を両立させながら高め合う役割を果たし得ることを示唆している。

(2)企業データについては、従業員本人の競争性への価値観（競争に勝つことで自尊心が高まる傾向：競争 CSW）が低い場合、競争を重要視する程度が高い職場で働いていると認知されるほど、離職願望が高くなることが示された。職場のメンタルヘルスの問題は「本人の性格の問題」「家庭の問題」と捉える企業が多い中（厚生労働省，2011）、組織の環境とのミスマッチが問題であることが把握できた。

また、個別企業調査からは、日本の様々な企業・組織において、会社への愛着や職場の人への信頼感が社員の幸福感に影響を与えることが明らかになった。つまり、会社への愛着や職場の人への信頼感が高い人の方が全体的に幸福感が高いだけではなく、会社の愛着や職場の人への信頼感の平均値が高い会社ほど、そうではない会社よりも従業員の平均幸福感が高かった。一方で、企業による違いがあるものもあった。従業員の自立性は社内のソーシャル・キャピタルがないときにはかえってうまく機能しないという結果が得られた。

これらの結果から、日本国内の文化の多層性（生業や企業風土による違い）と共通性の双方を検証することが出来た。地域においても組織においても、相互協調性や人々のつながりは重要な要因であることは共通事項であり、これらがインフラとしてうまく機能している場合に、自立性などの個人の価値に関わる要因がポジティブな効果を持ちやすくなることが示された。これらの結果は、学会発表、論文執筆、企業等での一般向け講演会を通じて成果発表を行った。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 17 件）
①Takemura, K., Uchida, Y., & Fujino, M.、Extension officers as social coordinators: Comparison between agricultural and fishing communities in Japan、Psychologia、査読有、57、2014、245-258
②内田由紀子、日本の「幸福」を考える、人間生活工学、査読無、15 巻 2 号、2014、1-3
③Park, J., Uchida, Y., & Kitayama, S. 、Cultural variation in implicit independence: An extension of Kitayama et al. 2009 、International Journal of Psychology、査読有、 Online Version DOI: 10.1002/ijop.12157、2015
④内田由紀子、日本の若者の幸福感と文化的基盤：個人主義と関係志向の狭間で、現代の社会病理、査読無、30, 2015、57-67
⑤竹村幸祐・内田由紀子、漁業コミュニティの社会関係資本と水産業普及指導員の『つなぐ』役割、水産振興、査読無、2015、574（第 49 巻第 10 号）、1-49
⑥笹川果央理・竹村幸祐・内田由紀子、自己価値の随伴性と従業員の心理的健康 ストレス科学研究、査読有、30、2015、1-7
⑦Uchida, Y., & Oishi, S.、The happiness of individuals and the collective 、Japanese Psychological Research、査読有、58、2016 年、125-141
⑧内田由紀子、問われる幸福の指標の活用：幸福を支える集合的要件、CEL: Culture enrgy and life、査読無、110、2016、38-43
⑨ Fukushima, S. 、Multilayered Sociocultural Phenomena: Associations between Subjective Well-being and Economic Status 、Zygon: Journal of Religion and Science、査読有、51 巻 1 号、2016、191-203
⑩福島慎太郎、竹村幸祐、内田由紀子、農業社会・漁業社会における社会関係の特徴に関する調査研究、農林水産省農林水産政策研究所編「新たな価値プロジェクト研究資料」、査読無、1 巻、2016、75-110
⑪Takemura, K., Hamamura, T., Guan, Y., & Suzuki, S.、Contextual effect of wealth on independence: An examination through regional differences in China、 Frontiers in Psychology、査読有、2016、7、Article 384
⑫内田由紀子、幸福感研究と指標活用、生活協同組合研究、査読無、2016 年 11 月号、12-19
⑬Kitayama, S., Akutsu, S., Uchida, Y., & Cole S. W. 、Work, meaning, and gene regulation: Findings from a Japanese information technology firm 、Psychoneuroendocrinology、査読有、72、2016、175-181
⑭笹川果央理・中山真孝・竹村幸祐・内田由紀子、メンタルヘルス不調による休職者の自己価値の随伴性、査読中、2017
⑮竹村幸祐・内田由紀子・福島慎太郎、生業グループの社会関係資本と普及指導員の活動:農業者グループおよび漁業者グループのリーダー調査による検討、査読中、2017
⑯Fukushima, S., Uchida, Y., & Takemura, K. 、Not Individual-level but Community-level Social Capital Fosters Interconnectedness of Happiness among People: A Multilevel Analysis of Community Survey Data in Japan、査読中、2017
⑰福島慎太郎・竹村幸祐・内田由紀子、農業社会ならびに漁業社会の社会関係の特徴に関する調査研究: 水平的な社会関係と垂直的な社会関係に着目して、査読中、2017

〔学会発表〕（計 28 件）
①内田由紀子、文化と幸福、指標作成（学会メインシンポジウム）、第 87 回日本産業衛生学会、2014 年 5 月、（招待講演）
②内田由紀子・竹村幸祐・福島慎太郎、生業コミュニティ文化の検証：農業・漁業・都市地域比較（ワークショップ「文化の単位を問う：地域・生業・国家比較を通じた検証」）、日本社会心理学会第 55 回大会、2014 年 7 月、北海道大学
③ Uchida, Y. 、Cultural Construal of “Interdependent Happiness” in Japan: Cultural Psychological theories and empirical evidence The 14th European Association for Japanese Studies、2014 年 8 月、Ljubljana, Slovenia（大会基調講演）
④内田由紀子、こころと幸福：日本的幸福観考察、第 36 回全国大学メンタルヘルス研究会、2014 年 12 月、龍谷大学（招待講演）
⑤Uchida, Y., Takemura, K., Fukushima, S., Saizen, I., Koizumi, N., Kawamura, Y., & Yoshikawa. S.、Farming, but not fishing, cultivates shared culture within a community、The 11th Cultural Psychology Preconference at the 16th Annual Meeting of Society for Personality and Social Psychology、2015 年 2 月、Long Beach、California、USA
⑥Fukushima, S., Uchida, Y., & S., Saizen, I. 、Effects of social norms on cooperative behavior in correlation with geographical network size: An empirical approach to cultural unit and transmission 、The Sixteenth Annual Meeting of The Society for Personality and Social Psychology、2015 年 2 月、Long Beach, California, USA
⑦ Fukushima, S. 、The perspectives of multi-layered units and relativeness of social subjects: Towards the integration of social science and humanity 、The Presence and Future of Humanity in the

Cosmos: Why Society Needs Both the Sciences and the Humanities、2015 年 3 月、Mitaka, Tokyo, Japan
⑧Uchida, Y.、What constitutes a good life? Cultural variation in the emotional patterns of happiness and wellbeing、ISRE 2015 conference、2015 年 7 月、University of Geneva
⑨Uchida, Y.、The happiness of individuals and the collective、日本心理学会第７９回大会ワークショップ（発達・感情・幸福感－比較文化心理学の最前線）、2015 年 9 月
⑩竹村幸祐・内田由紀子・福島慎太郎 、共有される文化と生業：マルチレベル分析による検討「こころに及ぼすマクロな影響を測る：心理・社会・文化への量的アプローチ」、日本心理学会第 79 回大会公募シンポジウム、2015 年 9 月
⑪Uchida, Y., Takemura, K., & Fukushima, S.、How do we construct happiness and social capital? Evidence from community research in Japan 、13th Meeting of German-Japanese Society for Social Sciences in Cooperation with the German Institute for Japanese Studies (DIJ) “Trust and Risks in Changing Societies”、2015 年 10 月、東京
⑫Fukushima, S., Uchida, Y., & Takemura, K. 、Collective happiness in Japan 、International Conference on GNH、2015 年 11 月、Paro, Bhutan
⑬Uchida, Y.、Interdependent happiness and wellbeing、International Conference on GNH、2015 年 11 月、 Paro, Bhutan
⑭中山真孝・竹村幸祐・内田由紀子、マインドワンダリング傾向と職場での提案行動との関連：認知心理学と社会心理学の観点から、第 13 回日本ワーキングメモリ学会大会、2015 年 12 月、京都大学
⑮Uchida, Y., Takemura, K., & Fukushima, S.、 Farming cultivates a shared culture within a community: Examining the macro-level effects with multilevel analysis in farming and fishing areas、The 23rd congress of the International Association for Cross-Cultural Psychology、2016 年 8 月、 Nagoya, Japan
⑯Fukushima, S., Uchida, Y., Takemura, K., & Hitokoto, H. 、 Collective Happiness: Community Social Capital Reinforces the Association Between One’s Own Happiness and One’s Neighbors’ Happiness. 23rd International Congress of the International Association for Cross-Cultural Psychology、2016 年 8 月、Nagoya, Japan
⑰ Hitokoto, H., Uchida, Y. 、 The interdependence of happiness: Its measurement validity and concept application、23rd International Congress of the International Association for Cross-Cultural Psychology 、2016 年 8 月、Nagoya, Japan
⑱金子祥恵・内田由紀子・中山真孝・竹村幸祐・伊藤篤希、自己価値の随伴性と職場の価値観との不一致が従業員に及ぼす影響、日本社会心理学会第 57 回大会、2016 年 9 月、関西学院大学
⑲竹村幸祐、集合知を支える相互独立文化：文脈効果の検討．日本社会心理学会第 57 回大会、2016 年 9 月、関西学院大学
⑳内田由紀子、コミュニティの幸福について考える、日本ポジティブサイコロジー医学会、2016 年 10 月、龍谷大学（招待シンポジウム）
㉗内田由紀子 、 地域の幸福とは何か：文化心理学からの考察．日本社会心理学会第 60 回公開シンポジウム「幸福感の社会心理学」、2016 年 11 月、富山大学
㉘Takemura, K., Hamamura, T., Guan, Y., & Suzuki, S.、Disentangling effects of society-level wealth and individual-level wealth on independence: An examination through regional differences in China 、International Convention of Psychological Science、2017 年 3 月、 Vienna, Austria (Symposium)

〔図書〕（計 3 件）
①内田由紀子（分担執筆）、作品社、「我」と「場」の幸福論、「2100 年へのパラダイムシフト」（広井良典・大井浩一編）、2017 年、92-94
②内田由紀子（分担執筆）、創元社、文化とこころーこころへ社会科学的アプローチ、「こころ学への挑戦」（吉川左紀子・河合俊雄編）、2016 年、193-219
③内田由紀子・一言英文・中尾元（分担執筆）、ナカニシヤ出版、保健と健康の心理学：ポジティブヘルスの実現、「健康と文化（大竹恵子編著）、2016 年、 193- 212

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

○取得状況（計 0 件）

〔その他〕
講演
①内田由紀子、仕事と組織における幸福とは何か～GNH を手がかりに、盛和塾北大阪例会 2014 年 6 月、大阪市
②Uchida, Y.、How do we construct happiness and social capital? Evidence from community research in Japan、Japanese studies、 2014年8月、University of Vienna
③Uchida, Y. 、The social and emotional context of aging in rural areas: 超高齢社会における農村・農家の将来像 2014 年 9 月、京都工芸繊維大学
④内田由紀子、日本の地域における幸福感、

第 112 回西日本経済同友会会員合同懇親会、2014 年 10 月、高知市（基調講演）
⑤内田由紀子、文化と幸福：ソーシャル・キャピタルとの関連、東洋大学社会学研究科院生セミナー、2014 年 10 月、東洋大学
⑥内田由紀子、日本における組織と地域のメンタルヘルス、メンタルヘルス講習会、2014 年 11 月、京都農協健康保険組合
⑦Uchida, Y.、Cultural models of social relationships and well-being in Japan、国際協力基金「日中韓次世代リーダーフォーラム 2014」、2014 年 11 月、京都大学
⑧内田由紀子、農業者・農業普及指導員調査から見る人の心をつなぐ力へのアプローチ、農業普及活動高度化全国研究大会、2014 年 11 月、東京都（基調講演）
⑨竹村幸祐、個人主義的心理傾向の社会性：社会関係の流動性・経済的豊かさの影響、滋賀大学経済経営研究所定例研究会、2014 年 11 月、滋賀大学
⑩竹村幸祐・内田由紀子・福島慎太郎、農業者のつながりと普及活動：社会心理学からのアプローチ、平成 26 年度兵庫県普及活動研究発表大会、2014 年 11 月、姫路市
⑪内田由紀子、地域の幸福とソーシャル・キャピタル：「つなぐ」仕事再考、2014 年 12 月、慶應義塾大学
⑫内田由紀子・福島慎太郎、農業者・農業普及指導員調査から見る人の心をつなぐ力へのアプローチ：平成 26 年度近畿ブロック提案型研修、2015 年 1 月、近畿農政局
⑬竹村幸祐・内田由紀子・福島慎太郎、農業者のつながりと普及活動：社会心理学からのアプローチ、平成 26 年度普及活動高度化研修（香川県）、2015 年 2 月、綾歌郡綾川町
⑭内田由紀子、文化と幸福～日本における関係志向的幸福についての文化心理学的実証研究～、たちばな賞授賞式、2015 年 3 月、京都大学
⑮内田由紀子、日本における幸福観の多層性：企業・組織風土との関わり、第 47 回京機サロン、2015 年 4 月、大阪市
⑯Uchida. Y.、Culture, happiness, and social capital、2015 年 5 月、Cultural psychology lab, Department of Psychology, Stanford University
⑰Uchida. Y.、Culture, happiness, and social capital: Macro-micro function of cultural agency、2015 年 7 月、K.U. Leuven cultural psychology lab
⑱内田由紀子、企業経営と幸福度を考える第 24 回四国地区経済同友会交流懇談会、2015 年 9 月、高知
⑲内田由紀子・竹村幸祐、人が育つ組織準公開ワークショップ「組織における主体的なイノベーション行動の誘発を支える要因ーソーシャルキャピタルの観点からー」、2015 年 9 月、京都
⑳竹村幸祐、農業者・農業普及指導員調査から見る人の心をつなぐ力へのアプローチ、鹿児島県県域研修会、2015 年 10 月、鹿児島市
㉑内田由紀子、地域の幸福と健康を考える：社会心理学からのアプローチ、京都大学地域講演会（徳島講演会）、2015 年 12 月、徳島市
㉒福島慎太郎・内田由紀子・竹村幸祐、漁村におけるつながりの醸成に資する水産業普及指導員の役割、水産庁：平成 27 年度水産業普及指導員研修会、2016 年 2 月、東京
㉓福島慎太郎・内田由紀子・竹村幸祐、農村におけるつながりの価値・機能について、農林水産政策研究所：農林水産政策研究所セミナー、2016 年 2 月、東京
㉔内田由紀子、経営者と幸福感、第 7 回京機ビジネスクラブ、2016 年 2 月、大阪
㉕竹村幸祐・内田由紀子・中山真孝、幸福感向上による働きがい醸成：メンバー能力最大化へのアプローチ、ナブテスコ株式会社 鉄道カンパニー「くすのき会」講演会、2016 年 4 月、ナブテスコ株式会社神戸工場
㉖内田由紀子、つながりがもたらす新しい価値と幸福：文化心理学からのマクロ・マイクロインタラクションアプローチ、産業競争力懇談会、2016 年 5 月、東京都
㉗内田由紀子・竹村幸祐・中山真孝、社員を育てる（社員の成長が会社の発展につながる）社員の幸福感や満足感のつくり方、京都微助っ人研究会春の例会、2016 年 5 月、京都市
㉘内田由紀子・竹村幸祐・中山真孝、経営者と幸福感、日本自動車部品工業会　関西支部総務分科会講演会、2016 年 6 月、京都大学
㉙内田由紀子、いま「幸福」を考える、第 76 回岩手県総合計画審議会、2016 年 6 月、岩手
㉚内田由紀子、つなぐ普及活動と農業地域の幸福、2016 年 11 月、近畿農政局
㉛福島慎太郎・内田由紀子・竹村幸祐、漁村におけるつながりの醸成に資する水産業普及指導員の役割、平成 28 年度第 2 回水産業普及指導員研修会、2017 年 2 月、水産庁

６．研究組織

(1)研究代表者

内田　由紀子（UCHIDA, Yukiko）
京都大学・こころの未来研究センター・特定准教授
研究者番号：６０４１１８３１

(2)研究分担者

竹村　幸祐（TAKEMURA, Kosuke）
滋賀大学・経済学部・准教授
研究者番号：２０５９５８０５

(3)連携研究者

福島　慎太郎（FUKUSHIMA, Shintaro）
青山学院大学・総合文化政策学部・助教
研究者番号：８０７１２３９８